

## 2018年4月実績概要(メモ)

(2018. 5. 24)

定修に伴いエチレンの減産が続く、これに相俟って合成樹脂、化成品の生産も前年割れ。

## 1. 生産動向

イ) エチレン 484,300トン

前月比 ▲ 2.1% (▲10,300トン)

前年同月比 ▲ 11.8% (▲65,100トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2 %	—
定修要因等	+ 2.3 %	▲ 11.6 %
能力増減	—	—
稼働率変動	▲ 1.2 %	▲ 0.2 %
生産増減率	▲ 2.1 %	▲ 11.8 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月 97.0% → 当月 96.0% ← 前年同月 96.2%

定修プラント：前月 2社2プラント → 当月 2社2プラント ← 前年同月 なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数の減少や定修規模の増加から PP、PS、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、ベンゼン、キシレンなどの9品目がマイナス。LD、HD、SBR、BRなどの8品目は定修規模の差や稼働率要因からプラスとなった。

前年比では、主に定修規模差から LD、HD、PP、SM、塩ビモノマー、EG、SBRなどの11品目がマイナス。PS、AN、BR、ベンゼンなどの6品目はプラスとなった。

## 2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、稼働日数減があったものの LD、HD では主に稼働率要因からプラスとなった。PP はほぼ日数減少見合いのマイナス、PS は日数減と定修規模差からマイナスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因等から LD、HD、PP の3樹脂でマイナス。PS は定修規模の減少からプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、ユーザー側での稼働日数の減少もあり4樹脂ともにマイナスとなった。このうち PS は前月の出荷レベルが高めであったこともあり、当月は大幅なマイナスとなった。出荷分野別には、LD、HD ではフィルム分野、PP では射出成形分野、PS では包装分野といった主用途における出荷量の減少が目立つこととなった。

前年比では、ポリオレフィンの前年の出荷レベルが近年では高めであった。これに対し当年は定修規模が大きいこと、また、在庫積み増しの動きが継続していることもあり、いずれもマイナスとなった。PS は前年並みとなった。

ハ) 輸出

輸出は低位な水準で推移していることに変わりなく、前月比で LD、HD、PP でマイナス。PS のみがプラスとなった。

前年比では LD、HD はマイナス、PP は久方ぶりに前年比でプラスに転じたが、輸出数量自体は近年では低めとなっている。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、PP、PS で増加、HD は若干の減少となった。在庫率(季節調整済)は前月に対して LD、PP、PS は上昇、HD は低下した。在庫水準としては、LD、HD、PP、PS ともに数値上高めとなっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		3月末	4月末
LD	+ 4,300	3.6	3.7
HD	▲ 5,500	3.5	3.3
PP	+ 24,500	3.0	3.1
PS	+ 3,100	1.3	1.6

以上